

手の機能拡張に関するデザイン研究

A Design Study on Functional Enhancement of the Hand

和田将造 WADA SHOZO 2018年入学 | 工業設計学科 Department of Industrial Design

分類: 卒業研究

作品/論文: 作品

制作年度: 2021年度

課題概要: プロダクト

受賞等: なし



図1. 指型ガジェット手のひら側着用例

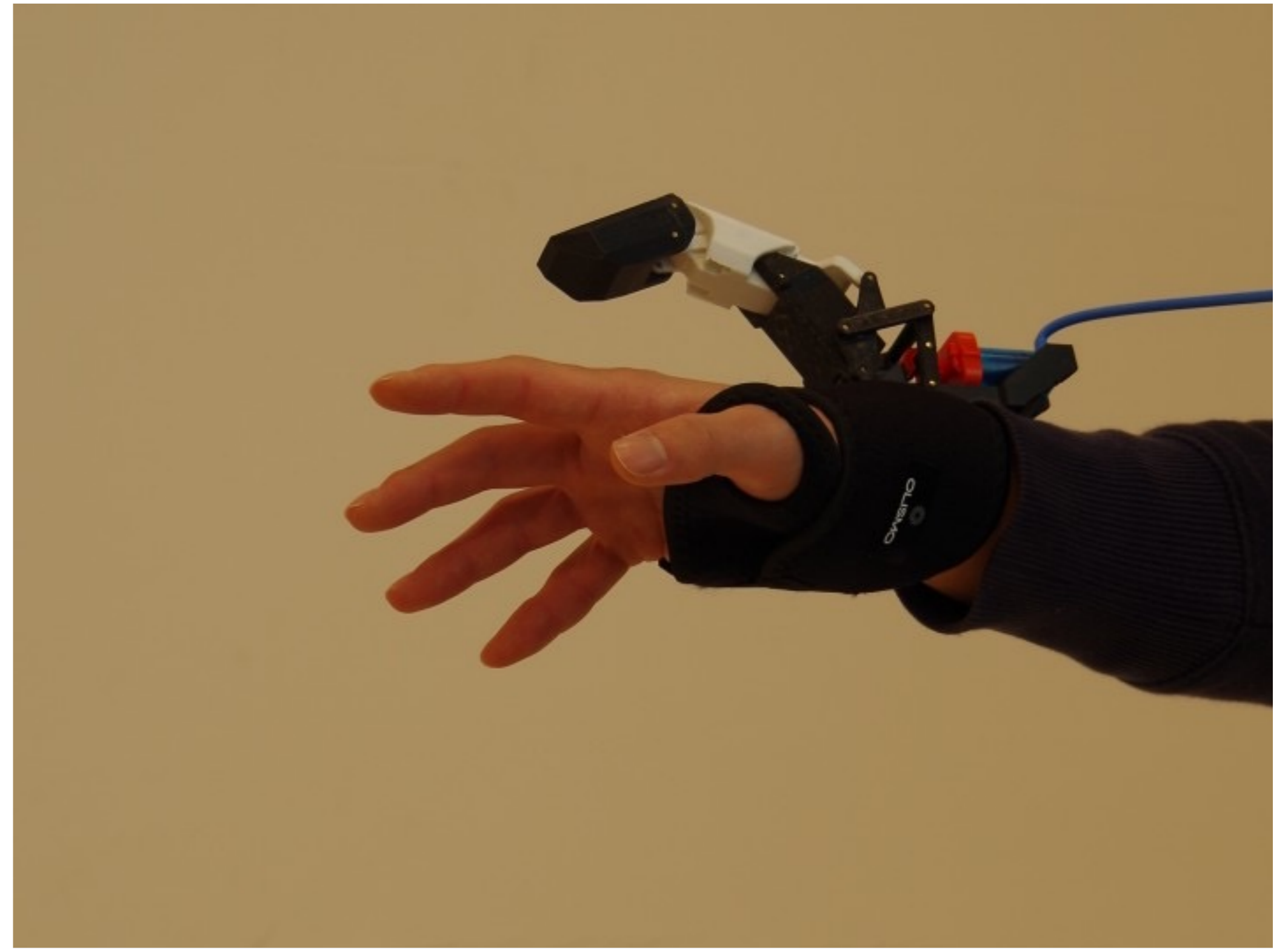


図2. 指型ガジェット手の甲側着用例



図3. 使用例 (ギター演奏)



図4. 使用例 (エレベーターのボタンを押す)



図5. 使用例 (アルコールディスペンサーを押す)

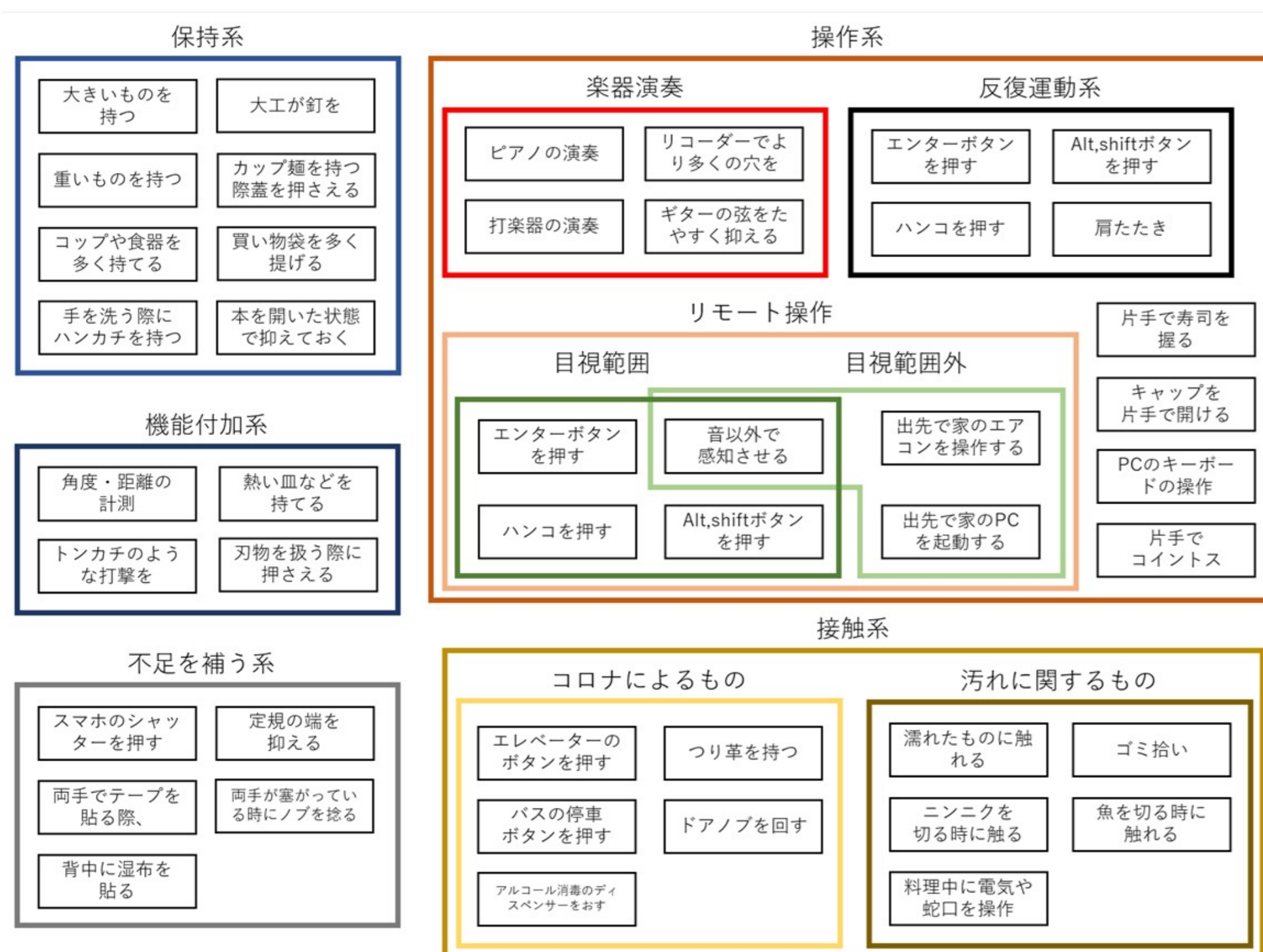


図6. ワークショップの結果のグルーピングによる分類・整理

手にはさまざまな機能が備わっており、外界にアクセスする重要な器官である。その中でも特筆すべき機能として、拡張可能性の高さが挙げられる。これは、道具などを用いることによって手の機能を拡張するものである。本研究では新たな手の機能拡張の方法を模索し、そこに既存の方法とは異なる新しい価値を見出すことを目的とした。

「第3の親指」という先行研究を参考とし、これが抱える「同一の位置に固定されている」という固定観念から脱することで、新たな手の拡張の方法を発想しようとした。そのため、「自由にどこにでも」装着可能な指型のガジェットを作成し、これを実際に装着してもらい、触れてもらいながら使い方を供出してもらったワークショップを行うことで広くアイデア展開を行った。その結果、さまざまな常識にとらわれないユニークな使い方を得ることが出来た。これらをまとめたものが図6の図となる。